

2023年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	竹越 美奈子
最終学歴	学位	専門分野
東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了	修士	中国語学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】学生の個性を尊重する

【目標】学生の個性を尊重した教育

【方針】演習所属学生に対する個人面談をていねいに行う

【計画（方法）】4月 第1回個人面談、7月 第2回個人面談ほか

【担当科目】

（前期）

総合演習Ⅰ、中国語オーラルコミュニケーションⅠ、中国語総合Ⅰ

（後期）

現代中国論、総合演習Ⅱ、中国語オーラルコミュニケーションⅡ、中国語オーラルコミュニケーションⅢ、中国語総合Ⅱ

○教育方法の実践

中国語科目が、選択科目になったことにより、学生の学習意欲にも差がみられるようになった。多様な学生に対応するため、発音の個人指導の時間を設けた。

○作成した教科書・教材

とくになし。

○自己評価

総合演習では、全員が3年次に進級することができ、ほっとしている。

II 研究活動

○研究課題 粵語方言字の変遷

○目標・計画

【目標】粵語で使われる方言字がどのようにして生まれ、現在の形になったのか、主として19世紀の粵語資料を用いて跡付ける。

【計画】8月 香港で資料検索、漢語方言研究会で発表、10月 日本中国語学会全国大会で口頭発表、12月 国際粵語学会で口頭発表ほか

○2016年4月から2024年3月の研究実績（特許等含む）

（著書）

（学術論文）

・竹越美奈子(2018)「近代粵語遇攝の二重母音化と早期粵語資料」単著、『東邦学誌』第47巻第2号、pp. 57-77.

・竹越美奈子(2017)「近代粵語遇効攝一等字の変遷」単著、『東邦学誌』第46巻第2号、pp. 1-25.

・Minako Takekoshi(2017) Cantonese as Learned by Missionaries in the 19th Century: Language Variation in Easy Lessons in Chinese. Current Research in Chinese Linguistics. Vol. 97. 1: 273-284. 【査読あり】

（学会発表）

・竹越美奈子(2024)「早期粵語語法研究的当前課題：三十年的回顧」2024年3月28日、第21回漢語方言研究会（京都外国語大学、Zoomとのハイブリッドで開催）

・竹越美奈子(2023)「粵語方言字の変遷」2023年3月29日、第19回漢語方言研究会（Zoomミー

ティング)

- ・竹越美奈子(2023)「粤语汉字和日语国字对比研究」2023年3月8日、International Conference on Cantonese Writing from an Interdisciplinary Perspective (香港中文大学、ハイブリッド形式による国際会議、リモート参加)
 - ・竹越美奈子(2021)「福屋正男 1923《日粵會話》簡介」2021年3月27日、Workshop on Early Cantonese (Zoom ミーティング)
 - ・竹越美奈子(2021)「福屋正男 1923『日粵會話』について」2021年3月26日、第15回漢語方言研究会 (Zoom ミーティング)
- ・竹越美奈子(2019)「歴史資料と言語地図」2019年8月27日、第13回漢語方言研究会 (近畿大学東京センター)
- ・竹越美奈子(2019)「十九世紀粵語英語借詞の高元音裂化」2019年5月11日、第27回国際中国語学会(International association of Chinese Linguistics) (神戸市外国語大学)
- ・竹越美奈子(2019)「19世紀粵語英語借詞の音韻変化」2019年3月26日、第12回漢語方言研究会 (近畿大学東京センター)
- ・竹越美奈子(2018)「近代粵語遇攝の二重母音化と早期粵語資料」2018年8月27日、第11回漢語方言研究会 (近畿大学東京センター)
- ・竹越美奈子(2018)「19世紀粵語高母音の二重母音化と香港の地図」2018年3月18日、第10回漢語方言研究会 (神戸山手大学)
- ・Minako TAKEKOSHI(2017)「早期粵語遇攝一等字的裂化」2017年12月8日、第22回国際粵方言研討会 (香港教育大学) 【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2016)「粵語複元音化的歴史和早期粵語文献」2016年12月24日、中古近代漢語ワークショップ (中国浙江大学)
- ・竹越美奈子(2016)「Diphthongization as part of a systematic sound shift in Cantonese: With special reference to early Cantonese materials in the 19th century」2016年12月13日、第21回国際粵方言学会 (マカオ理工学院) 【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2016)「近代粵語高母音の二重母音化——早期粵語資料編者の観察から」、第5回漢語方言研究会 2016年8月30日

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

なし

○所属学会

日本中国語学会、東京大学仏教青年会、日本マインドフルネス学会、国際中国語学会 (IACL)

○自己評価

コロナ禍で中断した学会・研究会も復活してきたので、次年度以降はもっと積極的に参加したい。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】入試問題作成委員会委員長として、ミスのないように問題作成にあたる

【計画】4-5月 作成担当者の選任と依頼、10月 年内実施問題の完成ほか

○学内委員等

入試問題作成委員会委員長

○自己評価

大過なく任務を果たすことができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】学外での講義・セミナーに積極的に関わる

【計画】

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員就任予定
高大連携授業（2月）、出張講義（未定、随時）ほか

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

高大連携授業「東洋の思想：ヨーガとかんたん瞑想」（2024年2月7日）

○自己評価

おおむね予定通りの仕事をした。

V その他の特記事項（学内研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

VI 総括

おおむね予定通りの仕事をした。

以 上